

21 週目：仲間を呼び集めるイエス



霊操の中でイエスの生涯は少しずつ現れてきます。それと共に、私たちもイエスの生き方にますます引きつけられるようにと望んでいます。今週は、御父の使命に仕える仲間を呼び集めるイエスの生涯を黙想します。私たちはかつて神の呼びかけを「義務」として捉え、それに戸惑ったことがあるとしたら、今回イエスの生涯を親密に知り、さらにイエスの生き方の魅力に引きつけられることによって、彼と同じように、神の使命に積極的に応えたいという望みをもっと強くもつようになるでしょう。

福音書で仲間たちに呼びかけるイエスの姿は様々な場面で現れます。今週、それらの場面を黙想して、私たちの「心」と「体」をイエスの方に向けてるように努めていきます。特に、イエスの生き方に従うそのすばらしさや喜びなどを祈りの中で感じられるように、その恵みを望んでいきます。

今週の祈りから求められる「新たな認識」は私たちの日々の生活にとって最も必然的なものです。つまり、悲しみの時であっても、喜びの時であっても、イエスが常に「わたし」と共におられることは生きるための唯一の力です。私たちは眠りから覚めて、一日の生活や仕事を迎え、多くの人々と接しながら新たに感情的な出来事を体験します。ある時失敗を体験して、別の時成功を味わい、場合によってそういった体験を通して、ますます「人」と「神」との「愛の交わり」を感じるようになります。そういった流れで、私たちは一日の出来事を終えて、また眠りにつきます。この一日中の生活で、実際にイエスの呼びかけは私たちの応えを求めています。それに「はい」という応えをするかどうか、それは最も今週の祈りで私たちが深く求めたい応えです。

日々の霊操をするということはわたしたちに大きなパワーを与えてくれます。それはイエスをもっと親密に知り、深く愛すれば愛するほど、彼の生き方に積極的に従うパワーです。イエスの生き方はわたしたちの生き方に魅力を与えてくれるだけではなく、その生き方がわたしたちの生き方を変えてくれることはこの霊操から得られる最も大きな恵みです。愛の体験が私たちの優先選択を方向付けてくれるように、その同じ愛はわたしたちのすべての望みを変えます。イエスを愛すれば愛するほど、私たちの優先選択や望みもイエスの方に向かうようになります。このように、「イエスと共にいる」という生き方は常に私たちの望みを変化させてくれるものとなるでしょう。

「イエスは振り返り、彼らが従って来るのを見て、『何を求めているのか』と言われた。彼らが、『先生、どこに泊まっておられるのですか』と言うと、イエスは、『来なさい。そうすれば分かる』と言われた。そこで、彼らについて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。」(ヨハネ 1:35-39)

祈りの要点

*恵み：イエスがわたしの名を呼び、わたしを召し出してくださったことを知る恵み。
わたしは何のために召し出されたのかを知る恵みを願う。

第1～2日（ペトロの召命、ルカ 5:1-11）

- 夜通し働いても何もとれなかったペトロの苦勞を思う（5節）しかし、イエスのことばに従うと、船が沈むくらいの魚が取れる（6-7節）神からいただいた恵みは自分にとってどれくらいだろうか。
- ペトロは「わたしから離れてください。罪人なのですから」と言った（8節）わたしはイエスに対して何か言うことがあるだろうか。
- それでもペトロを弟子にする主イエス。それに対してすべてを捨ててイエスに従うペトロ。わたしはどのように応えようか。

第3～4日（レビの召命、ルカ 5:27-32）

- 金持ちだったか、皆から軽蔑されていた、罪人の徴税人レビの生活を思う。
- イエスに出会ったときのショックと喜び。そしてイエスに従った（28節）
- イエスは病人や罪人を招くために来られた（31-32節）

第5～6日（12人の弟子を選ぶ、マルコ 3:13-19）

- イエスはこの12人をなぜ選んだのだろうか。
- イエスのそばにいて、宣教するとはどういうことか（14節）
- 悪霊を追い出すとは（15節）

第7日（反復）

- わたしを洗礼へと導き、キリストの弟子になるように呼ばれたことの意味をもう一度思い巡らしてみる。
- キリストはなぜわたしを弟子にしたのか。
- キリストとわたしはどのような関係にあるだろうか。

ポイント

- 福音書に描かれているイエスの姿をよく見ること。彼は何を大事にして生きたのか。
- 彼の心はどのようなものか。何を望んでいたのか。わたしに対して、何をしてほしいと思っておられるのか。
- 何か引っかけることがあれば、それもよく見ること。何がわたしを悲しませるのか、何がわたしの足を引っ張っているのか。

他の聖書箇所

ヨハネ 1:35-42、43-51